

文部科学省 研究開発学校「徳育科」

武蔵村山市新教科「徳育」推進モデル校

文部科学省 コミュニティ・スクール マネジメント強化研究校

東京教師養成指定校

武蔵村山市理科観察実験支援事業校

武蔵村山市NIE実践校

ラオス・パチュドン校姉妹校



コミュニティ・スクール

八小だより

武蔵村山市立第八小学校 平成27年10月2日

(新アドレス) <http://www.city.musashimurayama.lg.jp/mmced8s/index.html>

教育目標

- ◎ 考える子
- 思いやりのある子
- やりとげる子

行動目標

わけをえて話すことができる子
教室で話しているのは一人



開校40周年を迎えて ～校歌のルーツを探る～

校長 牧 一彦

昭和50年4月1日に開校した本校は、今年で40年目を迎えました。10月5日の月曜日には40周年記念の航空写真の撮影を、翌6日には40周年記念集会を予定しています。

私は3年前、ある新聞社の取材を受けたことをきっかけに、本校の校歌のルーツについて調べてみました。当初なんの手がかりもありませんでしたが、当時の6年生のお父さんが、第1回卒業生の一人として、校歌の作詞に関わっていたらしいという情報を得ました。早速私は、そのお父さんからお話を伺い、歌詞に込められた思いや、できるまでの経緯について知ることができました。

そのお話によると、初代校長の中原幸成校長先生が、6年生の国語の時間に教室にやってきて、みんなで校歌を作ることを話したそうです。そして、「教室の窓を開けると外には何が見える？」と聞きました。6年生の子供たちは、口々に富士山が見える、茶畑が見えるなどと答えました。子供たちから集めたそれらのキーワードを、校長先生が持ち帰り、歌詞の素案を作ったのだそうです。

しかし、作曲者の伴谷晃二さんについては何の情報もありませんでした。そこで試しに、インターネットで検索をかけてみました。すると、「作曲家伴谷晃二」という同姓同名の人が見つかりました。しかし、その人は広島の方ですし、大学の先生ですから、校歌の作曲者の伴谷晃二さんとは結びつきそうにありません。しかし、だめでもともとという思いで、その方のアドレスにメールを送ってみました。すると翌日、次のようなメールが返ってきました。

はじめまして。この度は、校歌の件でお問い合わせをいただきありがとうございます。思いもかけず大変なつかしく校歌のイメージを思い起こしました。

私は、1976年に留学先のパリから帰国後、新設校の武蔵村山市立第八小学校で、音楽専科の先生の産休代替教員のお仕事をいただき、半年間でしたか、4年～6年生の授業を担当させていただきました。そんな中で、校歌を作ることが決まり、作曲に関しては、私がお引き受けすることになりました。私にとって校歌の作曲は初めての経験でした。「窓をあけると」のところは、校舎の窓から眺める四季折々の武蔵村山の畑や残堀川等の自然の風景が眼下に広がること、そしてはるか遠くに見える富士山がとても印象的であることなどを気に留めながら、明るく口ずさめる曲が仕上がるよう心がけました。また「ああ武蔵村山第八小学校」のところは、明るくすこやかに成長していく子供たちが卒業後、大人になっても末永く誇りをもって第八小学校を大事にしてほしいことをイメージし、元気よく曲を終えることを心がけました。

なんと、本校の校歌を作曲した伴谷晃二さんは、この広島の音楽大学(エリザベト音楽大学)の先生だったのです。また、先生が作曲された曲が国際作曲コンクールに入選したり、文化庁芸術祭最優秀賞を受賞したりするなど、作曲家としても幅広く活躍されていたのです。私は、思いもよらないことがきっかけで、校歌のルーツを知ることができ、とてもうれしい気持ちになりました。また、大変丁寧に対応してくださったこの伴谷先生のやさしさに、胸が熱くなる思いでした。

本校の子供たちは、この校歌が大好きでいつも大きな声で歌っています。この校歌で繰り返される「学ぶ我らに誇りあり」という歌詞のとおり、本校で学ぶ子供たちが、この第八小学校で学ぶことを誇りに思えるような学校づくりに努めていく決意です。